2021年9月号

ＦＰまつもと通信

ちょっと得する「保険」や「年金」についての話題をお届けします。

ご挨拶

9月20日は敬老の日ですね。

国は100歳を迎える高齢者にお祝い状と記念品の銀杯を贈呈しています。この銀杯、2016年に純銀製から洋銀製（銅、亜鉛、ニッケルの合金の表面を銀メッキ処理したもの）に変更になっているのですがご存じですか？

100歳以上の人口はお祝い行事が始まった1963年にはわずか153人でしたが昨年は80,450人と500倍以上になっていることが背景にあります。

銀杯の見直しなら良いのですが年金や医療・介護なども制度の見直しが検討されています。自分でできる準備はしっかりとしておきたいですね。

今月号のちょっと気になるお金のコラム

コロナが終息したら海外旅行に、と思っている人もいるのではないでしょうか？　ところが以前のように「安い！」と感じることが少なくなっているかもしれません。

新型コロナと住宅ローン

7月5日の日本経済新聞に「住宅ローン世帯、膨らむリスク--負債超過額、20年で4割増　老後圧迫の可能性」という記事が掲載されていました。

記事には、20年前と比べ、住宅ローン残高は1435万円→1677万円、借金から貯金を引いた負債超過額は518万円→746万円に増加した、とあります。

背景に物件価格の上昇があります。新築マンションの全国平均は20年で41％上昇、それに加え低金利や住宅ローン控除など、借りやすい環境が続きました。

有利な条件で借入をして購入した物件価格が上がったのは良いのですが一方気になる記載もありました。

物件価格が上昇したこの期間、給料の伸びは5％にとどまっていること、平均的な完済年齢が71歳であること、です。

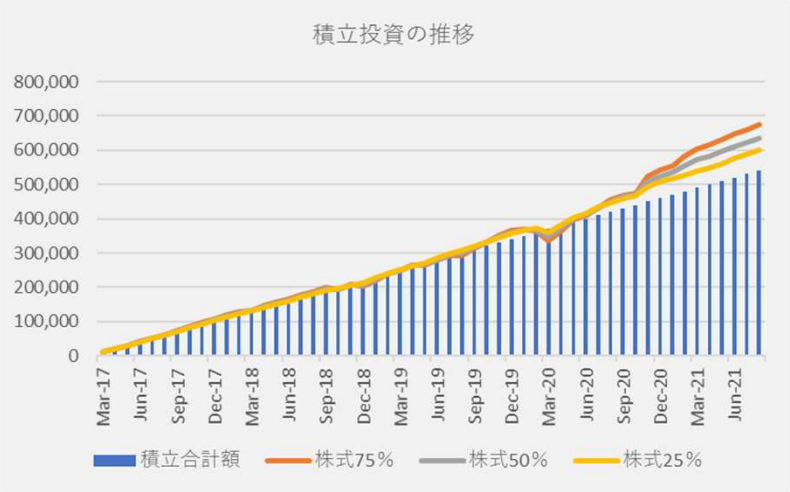
最近は新型コロナの影響もあり住宅ローンの返済が困難になる人、返済条件の変更を申し出る人も増えています。

これから住宅ローンを借りる人はもちろん、すでに住宅ローンを利用して住宅取得をした人も今後のライフプランを確認しておくことが大切ではないでしょうか？

ＦＰ松本相談センター
ファイナンシャルアドバイザー
媚山裕之
〒390-1702
長野県松本市梓川梓856-26
0263-76-1250
090-8741-7358
info@fp-matsumoto.com
https://fp-matsumoto.com

2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。
国も勧める、“確定拠出年金”や“つみたてNISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすくて、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド



N社バランスファンドのデータによる（コスト控除後）

	積立合計額	株式75%	株式50%	株式25%
2021年6末	520,000	647,618	610,531	575,221
2021年7末	530,000	658,219	622,742	589,499
2021年8末	540,000	674,575	636,204	600,801

2017年3月から開始した積立投資は図表のようになりました。

確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切です。

投資期間に応じた資産配分
積立期間が長い場合には株式の比率を多く、受取時期が近くなったら値動きが小さい債券の比率を多めにする。

大幅に値下がりした場合
積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する。

株式・債券の特徴を理解して長期継続する。

株式や債券の特徴をよく理解して、様々なニュースや情報に惑わされず投資を長期継続することが成果に結びつきます。

	日経平均	NYダウ	ドル円
7月末	27283.59	34935.47	109.66
8月末	28394.86	35360.73	109.99
	4.07%	1.22%	

NYダウ高値更新

好調な企業業績、ワクチン接種の進展を背景にNYダウ平均株価は8月終値で35360ドルと月末終値で初めて35000ドルを上回りました。

懸念されていたFRBのジャクソンホール会合も、パウエル議長は「テーパリング（資産買入縮小）」を示唆したものの、利上げを急がない考えを示したことでマーケットでは安心感が広がったようです。

今後については、米国は利上げ方向にあるものの引き続き潤沢な流動性があること、追加の財政出動期待、ワクチン接種の進展による経済活動の活発化、などがプラスの材料として期待されています。

一方、感染拡大、金融緩和縮小をめぐる不透明感などが懸念材料としてあげられています。

特にデルタ株による感染はワクチン接種完了率が高い国でも拡大しておりワクチン接種を進めても集団免疫の獲得が困難なことをうかがわせます。

拡大の状況によっては少し大きい調整があるかもしれませんが長期の積立投資ではそのような時もニュースなどに惑わされずに継続することが大切です。

当コラムは、商品選択の考え方、価格変動やニュースなどにどう対応するべきかについての一つの考え方をお伝えするもので、特定の運用商品、運営管理機関を推奨するものではありません。また、特定の商品の将来のパフォーマンスを約束するものでないことをご理解の上、ご覧ください。記載の情報（税制・社会保障制度・金融商品・マーケット・価格情報等）は発行日時点での情報に基づくもので将来は変更になることもあります。数値は公表されているデータに基づき当社にて計算・加工をしていますが、正確性を保証するものではありません。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

今月は加入者の方から最近いただいた質問をシェアしたいと思います。

スイッチングを検討しています。スイッチングのデメリットはありますか？

スイッチングそのものにはメリットもデメリットもありません。大切なのはどの商品をスイッチングするのか、その目的はなにか？になります。

聞いてみるとスイッチングの目的は以下のようなものでした。

- 株式ファンドが大きく値上がりしたので、株式ファンドを一旦債券や短期金融商品にしておいて、株式ファンドが値下がりしたら買い戻す。
- 大きく値上がりしている外国株式から出遅れと言われている日本株にスイッチングする。

大きく値上がり（値下がり）すると上手に動かしたくなる人もいるかもしれませんが、値動きではなく長期積立投資の原則に照らして検討することが大切です。

長期積立投資の原則

- 積立期間が長い場合、取崩し時期が先の場合には株式ファンドにする
- 幅広く世界に分散投資する
- 価格の上下やマーケット予想によってスイッチングをしない
- 価格が下がったら増額を検討する

一度や二度、タイミングを計ったスイッチングがうまくいったとしても今後も良いタイミングでスイッチングできるとは限りません。

長期の積立投資では値動きの予想をして上手に動かすよりも、時間をかけて期待収益が高い商品の口数を増やしていくことがポイントになります。

資産運用で成功するために大切なことはなんですか？

資産運用を始める方から多くいただく質問です。どのような勉強をすればよいか、と言ったことを期待しているのだと思いますが、最も大切なのはゴールに対する戦略と商品の選択を間違えないことです。

長期で殖やす	ゴール	短期で殖やす
長期・分散・積立	戦略	マーケット予想
世界経済の成長	成功要因	予想が当たること

資産運用や投資と一言で言ってもゴールが異なると全くやり方が変わってきます。

短期で殖やすのであればマーケットの動きを予想し当てる必要があります。そのためには日々マーケットをチェックし、世界中の投資家が次にどう動くかを予想し先回りしておく必要があります。

つまりウォール街のプロたちを相手に勝つことが必要になるということです。

一方長期で殖やすのをゴールにするのであれば短期的なマーケットの動きを見る必要はありません。企業活動が継続し、長期的に経済が成長していくのであればそれに応じて株価は上がっていくはずなのでそれを待てばよい、ということになります。

当初は長期で老後の資金を作ることを目的に始めたにもかかわらず短期的な値動きやそれを解説するニュースに惑わされて不要な売買をしている人は意外と多く、期待する成果が得られていないように感じます。

ゴール設定は明確か、ゴールと戦略がマッチしているか、今一度確認してみてはいかがでしょうか？

ちょっと気になるお金のコラム

新型コロナが落ち着いたら海外旅行に、と思っている人もいるのではないでしょうか？

海外に行くと物価の違いから物やサービスが安く感じたり高く感じたりすることがあると思います。安く感じると買い物も楽しく感じますね。

アメリカのビッグマックは600円以上！！

下表は2000年、2010年、2021年における日本、アメリカ、ユーロ圏、タイ、のビッグマックの価格推移です。価格は英国経済誌「エコノミスト」のビッグマック指数を参照しています。(https://www.economist.com/big-mac-index)

		Apr-00	Jul-10	Jul-21
日本	円	294	320	390
アメリカ	ドル	2.51	3.73	5.65
	円	267	324	620
ユーロ圏	ユーロ	2.56	3.38	4.27
	円	253	379	554
タイ	バーツ	55	70	128
	円	153	188	428

ビッグマックのように世界中で同一の品質のものの価格を比較することで日本と海外の物価の違い、円の購買力を知ることができます。

2000年、日本では294円でしたがアメリカでは2.51ドル（267円）、ヨーロッパでは2.56ユーロ（253円）、タイでは55バーツ（153円）と、海外では安く感じていました。

2010年になるとアメリカではほぼ同じ値段、ヨーロッパでは少し高く感じるようになりました。タイではまだ随分と安く感じます。

ところが2021年になるとアメリカやヨーロッパの値段は私たち日本人の感覚では相当高い、と感じるようになってきました。

アジア諸国はまだ「安い」と感じる国もありますが、タイ、シンガポール、韓国などは日本よりも高くなっています。

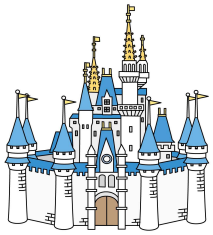
日本のディズニーランドは世界一安い！？

ディズニーランドも世界同一基準で運営されていますが各国の入園料に違いはあるのでしょうか？

東京ディズニーランドの1dayパスポート（ピーク日）は8,700円です。一方アメリカ、パリ、のディズニーリゾートは11,000円以上です（各国の当パークHPを参照）。

ここ数年「爆買い」が話題になっていました。日本製品やサービスの質が評価されているのは良いことですが、海外から来た人にとってはとても安く見えているのかもしれませんね。

日本国内だけで消費をしているには良いものが安く買えるので気になりませんが海外旅行などに行った場合には私たち日本人の購買力が低下していることを実感するかもしれません。

内外価格差が大きくなると輸入品などの価格に影響が出てくることも考えられます。

今後は将来の購買力を保つことも目的とした金融商品の利用も検討する必要があるかもしれませんね。